

NISSHA (コード 7915)

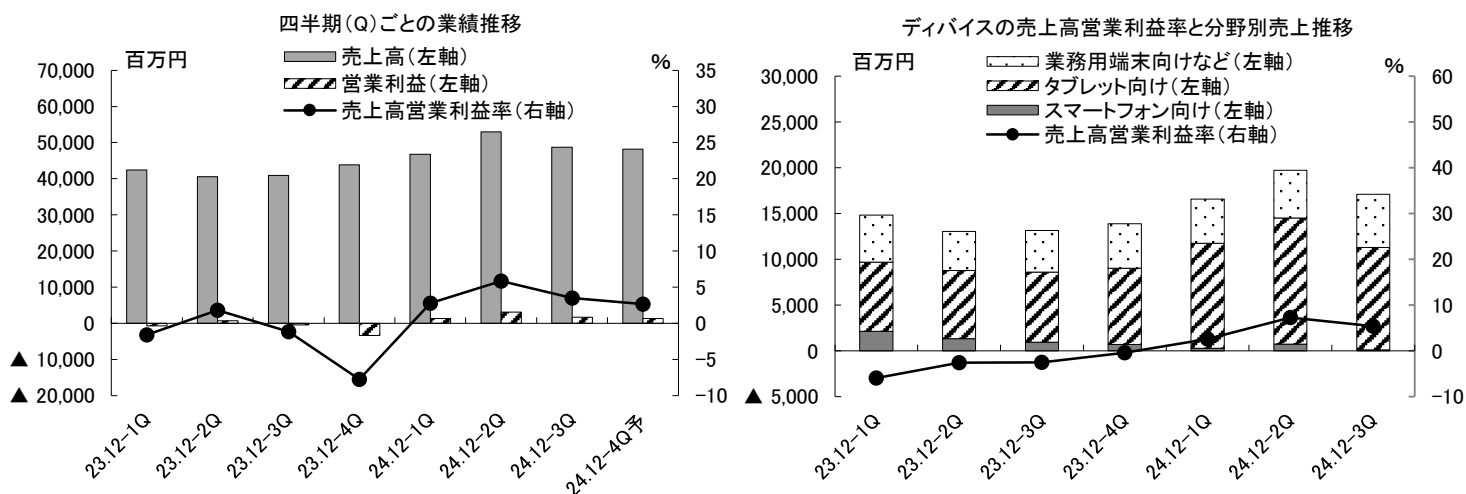
◆各決算期の第3四半期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.12	145,532	15,457	291.7	—	18,047	▲4,263	▲1,860	39,155
22.12	141,382	9,680	237.1	—	7,902	▲5,112	2,558	52,528
23.12	123,885	▲414	11.8	—	▲676	▲4,930	▲7,032	44,827
24.12	148,402	6,110	91.6	—	14,747	▲7,284	1,934	47,999

◆通期業績推移(連結) (24.12 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.12	189,285	17,363	318.4	40.0	18,790	▲6,871	2,609	42,330
22.12	193,963	9,520	203.7	50.0	12,039	▲4,385	1,082	54,325
23.12	167,726	▲3,817	▲61.1	50.0	1,486	▲8,019	▲12,629	37,854
24.12予	196,600	7,400	104.4	50.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



24年12月期第3四半期の業績概況…24年12月期第3四半期累計期間(24年1~9月)は、産業資材、デバイス、メディカルテクノロジーの各事業とも好調に推移したことから、前年同期実績に比べて売上高は約20%増加し、営業損益は黒字に回復した。

当期の業績は、売上高1,484億200万円(前年同期比19.8%増)、営業利益61億1,000万円(前年同期は4億1,400万円の損失)、税引前利益55億1,900万円(前年同期比452.7%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益44億2,300万円(同668.8%増)となった。

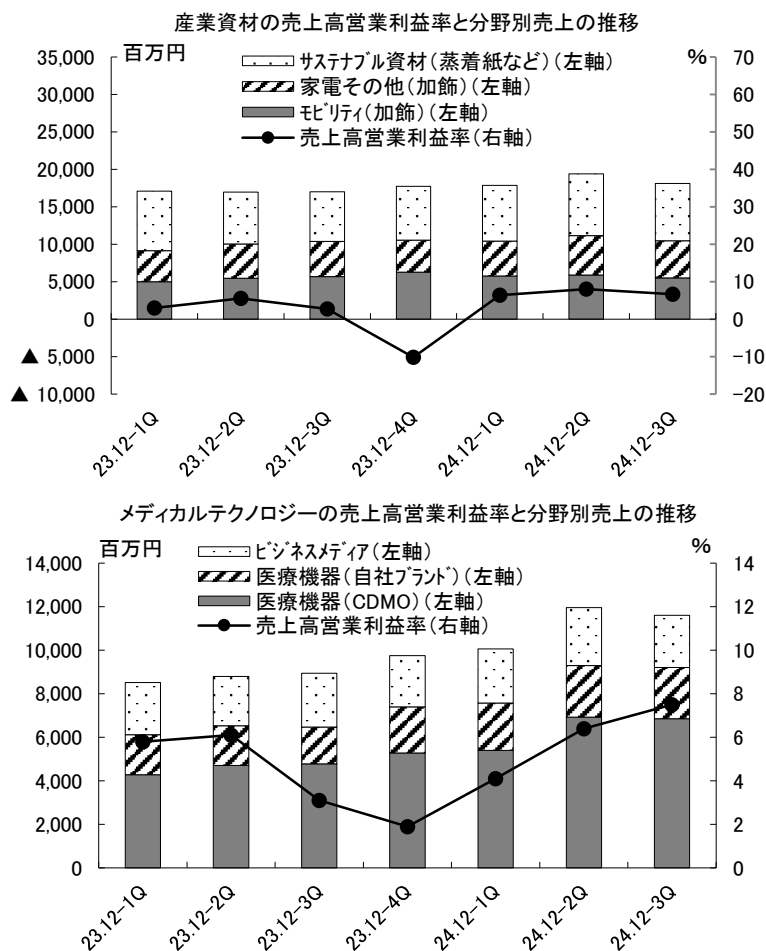
主な事業セグメント別売上高は、産業資材が553億1,400万円(同8.4%増)、デバイスが533億8,000万円(同30.2%増)、メディカルテクノロジーが336億3,800万円(同28.1%増)となった。また、主な事業セグメント別の営業利益は、産業資材が38億9,400万円(同104.5%増)、メディカルテクノロジーが20億4,400万円(同56.3%増)となったほか、デバイスが27億9,400万円(前年同期は15億2,500万円の損失)と黒字を回復した。

産業資材は、加飾分野のモビリティ及び家電向けの製品需要が堅調に推移したほか、蒸着紙についても需要サイドの在庫調整正常化によって堅調に推移。為替変動の影響や海外グループ会社の生産性・効率性改善なども加わり、増収増益となった。デバイスでは、前期において低調に推移したタブレット向けが今期の第1四半期(24年1~3月)に回復したほか、業務用端末向け

も製品需要が回復。増収・黒字回復となり、利益率の改善トレンドも続いている（1ページの右グラフ参照）。メディカルテクノロジーでは、主力のCDMOの製品需要が堅調に推移したほか、企業買収による業績貢献や為替変動の影響なども加わり、増収増益となった。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況について、当期末における現金及び現金同等物の残高は479億9,900万円（前年同期末比7.1%増）となった。営業活動CFは、税引前四半期利益55億1,900万円（前年同期比453.0%増）、減価償却費及び償却費70億4,100万円（同2.7%増）、営業債権及びその他の債権の増加額21億8,900万円（前年同期は減少額55億1,300万円）、棚卸資産の増加額52億5,200万円（同減少額14億8,300万円）、営業債務及びその他の債務の増加額80億2,600万円（同減少額122億6,900万円）、法人所得税の支払額11億6,000万円（前年同期比56.0%減）などにより、147億4,700万円の収入（前年同期は6億7,600万円の支出）になった。投資活動CFは、有形固定資産の取得による支出48億6,900万円（前年同期比95.6%増）、投資有価証券の取得及び売却による差引収入額80億4,500万円（同1,321.4%増）、関係会社株式の取得による支出5億4,000万円（同82.1%減）、子会社の取得による支出91億6,600万円（前年同期は無し）などにより、72億8,400万円の支出（前年同期比47.7%増）に。財務活動CFは、長短借入金の借入れ及び返済による差引収入額76億7,600万円（前年同期は11億500万円の支出）、自己株式の取得による支出16億4,000万円（前年同期比40.3%増）、親会社の所有者への配当金の支払額24億1,800万円（同17.8%減）などにより、19億3,400万円の収入（前年同期は70億3,200万円の支出）となった。

**24年12月期の通期業績見通し**…24年12月期の通期業績については、売上高1,966億円（前期比17.2%増）、営業利益74億円（前期は38億1,700万円の損失）、税引前利益66億円（同27億6,200万円の損失）、親会社の所有者に帰属する当期利益50億円（同29億8,800万円の損失）の見通しで、第3四半期（24年7～9月）に発生した為替差損など一過性損益の反映により、売上高以外について24年8月6日付けの会社側発表値（営業利益81億円、税引前利益95億円、親会社の所有者に帰属する当期利益66億円）から減額修正されている。



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。